

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 6 0 号 2 0 1 9 年 1 2 月 1 日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

クリスマスに寄せて

『私たちの目が再び開かれる期節』(創世記 21: 17b ~ 19)

北川博司 (人間福祉学科 講師)

「ハガルよ、どうしたのか。恐れることはない。神はあそこにいる子供の泣き声を聞かれた。立って行って、あの子を抱き上げ、お前の腕でしっかり抱き締めてやりなさい。わたしは、必ずあの子を大きな国民とする。」神がハガルの目を開かれたので、彼女は水のある井戸を見つけた。彼女は行って革袋に水を満たし、子供に飲ませた。

(創世記 21: 17b ~ 19)

クリスマスが近づいて来ると、この御言葉が思い浮かんできます。クリスマスは、イルミネーションが光り輝き、心が弾む期節ですが、同時に残酷な期節でもあります。なぜなら、クリスマスは、追い詰められ、「自死」を選択せざるを得ない人が多くなる期節でもあるからです。

私たち人間は誰もが生きていくのに息苦しさを感ずる経験を持っています。私たちが生きているこの社会には、何とも言えない閉塞感があり、その中で希望を見出すことが難しくなっています。いったい私たち人間は、どこから来て、何者で、どこへ行くのでしょうか。

日本財団が、20歳以上の約4万人を対象に、2016年8月に行った「自殺意識調査」によると、「4人に1人が本気で自殺したいと考えた」ことがあり、自殺未遂経験者は全国で推計53万人超(実際の同年の自殺者数は21,897人)。そして、「5人に1人が身近な人を自殺で亡くしている」という調査結果が出ています。このように、自死の問題は、決して私たちと無縁の問題ではなく、身近な問題となっているのです。

人は「助けて!」が言えない存在です。そして、大丈夫じゃないのに「大丈夫!」と口にしたり、物事がうまくいっていない時ほど「うまくいって

る!」と言うのです。困った、何とかしたい。でも自分の力だけでは何ともならない。そこで、自分の一番身近な存在である家族に相談しようとしても、悲しむ顔は見たくない。期待に応えられない自分自身が悔しい。親しい友人に相談しようとも、その困った姿を想像すると、親しいが故に言えなくなってしまふことだってあるのです。

もちろん私も例外ではありません。高校生の頃、生きていくのがつらく、悲しくて、もういなくなってしまいたい、闇の中、一人で、線路に近づいたことがあります。列車が近づいて来る、レールの「カタン、コトン」という鋭い金属音ががすかに聞こえた時、急にお腹が鳴りました。私はふと我に返りました。心の中では「死にたい!」と思っているのに、身体の方は何か食べて「生きたい!」と願っている。自分はいったい何をしているのだろうか。

人間は誰しも、愛し、愛されているが故に、自分の弱さをさらけ出すことができないでいます。誰もが心の中にそのような闇を抱えています。自分の弱さを他の人に言えない、伝えることができないことが闇なのです。そのことをキリスト教では、人間が生まれながらに抱えている罪、原罪と呼んでいます。そして、闇の中で神様が見えなくなっているのが私たち人間です。しかし、自分の弱さを受け入れ、自分の罪を告白する時、神様は「ここにいるよ!」



P. ゴーギャン『我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか』(1897~1897年 ポストン美術館所蔵)

と応え、私たちの目の前に現れるのです。

この旧約聖書の御言葉に記されている、少年イシュマエルはハガルの子。ハガルは女奴隷で、主人であるアブラハムが、正妻サラとの間に子どもができなかったことから、正妻に代わって族長であるアブラハムの子どもを産みました。

しかし、正妻サラが90歳という高齢になって、神様との約束により、跡継ぎの子イサクを産み、自分の子イサクの地位を確かなものとするため、アブラハムにハガルとその子イシュマエルの一族からの追放を願い出、彼は神様にすべてを委ね、苦渋の決断をするのです。

少年イシュマエルは砂漠をさまよひ、心も身体も枯れ果ててしまい、力尽き、倒れます。一緒にいる

母は、瀕死の我が子を目の当たりにするものの、どうすることもできず、絶望に身動きできずにいます。少年は父に見捨てられた苦しみや悲しみ、そして、怒りをどうすることもできなかったことでしょう。

しかし、神様はこの少年の心の呻き、魂の嘆きを見捨てることなく、母の目を開き、彼を救い出しました。

1年のうちで、最も闇が長く、寒い期節であるクリスマス。神様は敢えてそのような時を選び、闇の中からご自身を光り輝かせています。クリスマスは神様が私たちの目を再び開き、しっかりと抱き締めてくださる期節。私たちが今一度、心と目をしっかりと開き、神様に向ける期節でもあるのです。

はじめてのクリスマス

小室 明久 (幼児教育科 助教)

岐阜に移住して半年ほど経ちました。4月に来た当初、歩いてみると街並みや大学の風景はどこか懐かしい気がしたのを覚えています。私の生まれた地域は都心から少し離れた市街でニュータウンとして栄えた場所でしたので、どこか似たような整備のされ方をしたのかなと感じました。日本ではどこの場所も道路は舗装され、街並みは整えられていて同じように見えるなあと感じましたし、自分が慣れ親しんだ故郷に突飛な特徴はやはりないのだなと寂しくも思いました。

仕事をはじめて随分、周囲の方々に助けていただきました。話をする機会が多く、優しい人柄の皆さんと出会い、つくづく自分は恵まれていると改めて思っています。

ところが、話を聞いたり、ご飯に行くとふとした瞬間に少し違和感を感じるがありました。「長い時間バスに乗ってきてえらいなあ」と話を聞いた時は何が偉いのだろうと不思議に感じました。もちろん、それは方言で「大変だ」という意味で、今まで感じていたどことない懐かしさもなくなり、自分が外から来たよそ者だと認識する機会になりました。

よそ者としてのエピソードはまだ尽きません。仕事をしていると帰りが遅くなってしまい、度々タクシーのお世話になりましたが、タクシーの運転手さんは毎回、電話をするといつも同じ人が迎えに来てくれます。話を聞いていると生まれてから今までずっと岐阜に住んでいるとのこと。美味しいご飯のお店や昔の岐阜の話、地元の良さをたくさん聞かせてもらいました。話をするほど自分が離れた地に来たのだなと感じました。私が

岐阜の話を知っているのがどうやら珍しかったらしく、降りる際に「こんな話に付き合ってくれてありがとう」と言われました。帰り道に星空を見ながら歩いていると、ふと思ったことがあります。「こんな話」なのでしょうか？

地元で長くいる人にとっては珍しくもないのでしょう。けれども、その語られた話は確かにありありと自分に岐阜の過去の姿を描いてくれましたし、飲屋街の話や当時、流行となった店や場所など興味深く、私は純粋に話を楽しんでいると感じていました。

きっと、よそ者だからこそ分かる良さがあるのかもしれない。長良川の夏に獲れた鮎は絶品でした。紅葉の山々は日本の各地にあるが、岐阜ならではの見応えもあります。柿は土産品として有名であることなどどれも一つ一つが私にとっては魅力溢れるものです。私の勤務している大学では夜に空を見上げると本当に星々がはつきりと見えます。澄み切った空気を吸い、この良さはきっとよそ者である私にしかわからないのかもしれないなあと密かに嬉しく思います。

秋も過ぎ、いつの間にか冬に入ろうとしています。今までの冬を振り



返るとクリスマスや元旦など師走らしい日々を送っていたのを思い出します。毎年、私が過ごしていたクリスマスはイルミネーションで彩られ、様々なイベントがある街に赴くというものでした。

中部学院大学ではクリスマス礼拝と祝会があると聞きました。大学でのクリスマスの行事も、私

は今まで経験したことがありません。また一つ、私は新しいことを知る機会となりそうです。きっとこれからの岐阜での日々も私に魅力あることを教えてくれるのだろうと楽しみにしています。よそ者にとってはじめてのクリスマスがまもなくやってきます。

クリスマスといえば

山 田 修 平 (キャリア支援センター事務課)

いよいよ今年もクリスマスの季節がやってきました。この季節になると街はイルミネーションや飾りで彩られ、自然と気持ちがワクワクしてきます。皆様はクリスマスといえば何を思い浮かべますか？クリスマスツリー、ケーキ、サンタさん、プレゼント、雪だるま、チキン、クリスマスソング等々。また、今年のクリスマスは誰と過ごす予定ですか？家族と過ごす人、恋人と過ごす人、友人と過ごす人。こうして考えるだけでも温かく楽しい気持ちになります。

私は8歳の頃から毎週日曜は教会に通っています。イエス・キリストの誕生を祝うクリスマスは、キリスト教の一大イベントのため、教会では盛大に祝われます。毎年11月後半頃になるとアドベント(待降節)というクリスマスの準備期間がやってきます。準備期間には、教会の大掃除とイルミネーションやツリーなどの飾り付けを行います。また、イブ礼拝やクリスマス礼拝、クリスマス祝会の準備も行われます。12月24日のイブ礼拝はキャンドルライトサービスとも呼ばれ、ろうそくの火を用いて、いつもとは違う荘厳でロマンチック

な礼拝です。クリスマス礼拝や祝会は教会にもよりますが、クリスマスらしい幸せな雰囲気の中、おいしい食事や楽しい劇、讃美などの出し物があり、毎年盛況です。また、クリスマスの時期になると各地の教会でプロのミュージシャンや演奏者によるクリスマスコンサートがあったり、教会内はクリスマスの讃美歌が鳴り響き、みんなでクリスマスの幸せを味わいお祝いをします。

クリスマスの日にお生まれになったイエス・キリストは、暗闇に光を照らす救い主として、2019年前にこの世に来てくださったと聖書にあります。それは他でもなく私たち人間のためでした。このクリスマスの出来事は私たちにとって神様からの最高のプレゼントであり、慰めと励ましでもあるのです。ご興味があれば今年のクリスマスの時期はぜひ教会へ足を運んでみてください。今年、皆様にとって良いクリスマスが過ごせますように。



「2019年度中部学院大学・中部学院大学短期大学部 クリスマス献金」

Pray for the World!!

今年も主イエス・キリストのご降誕をお祝いするクリスマスの季節がやってきました。クリスマスは、主イエス・キリストがご自身のすべてを人々の幸せのためにささげつくしたことから、私たち自身の一部を少しでも人々の幸せのためにささげ合うことを実践する季節です。

今年の献金は、九州北部や関東・甲信・東北地方の台風または水害被災地、また世界各地の活動団体を継続して覚えたいと思います。皆さん、温かな思いをもってご献金ください。よろしくお願いいたします。

募集期間 2019年11月27日(水)～12月25日(水)

献金予定先： 大災害の被災地のために [日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」、台風・水害被災地]
地域の諸活動のために [野宿生活支援の会・岐阜、岐阜いのちの電話、キリストへの時間、愛知老人コミュニティセンター、あゆみの家、新隣館他]
世界の諸活動のために [ミンダナオ子ども図書館(フィリピン)、アハリ・アラブ病院(パレスチナ・ガザ地区)、ジョセフ記念教育基金(スリランカ)]

◎関キャンパスは総務課カウンター、各務原キャンパスは事務室に設置していますクリスマス献金箱に献金ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

2019年度 クリスマス礼拝

「最初のクリスマス」

日本キリスト教団 隠退牧師 鈴木 重正 先生



日時：12月19日(木) 11:00～12:15

(第2時限の講義は行いません。)

会場：関キャンパス グレースホール

〈奨励要旨〉

今では世界各地でクリスマスが祝われていますが、最初にキリスト誕生を祝ったのは、ユダヤのベツレヘムの野で夜通し羊の群れの番をしていた羊飼ただけでした。天使の告知を聞いて、彼らは急いで赴きました。誕生に際し用いられたのは庶民の娘マリア、誕生の場所は無名の寒村ベツレヘムでした。そして家畜小屋の餌箱である飼葉桶の中に、幼子の救い主は寝かされたのでした。当時の常識からすれば意外に思える出来事でしたが、彼らはこれを神の御業と信じたのみならず、人々に告知らせ、神をあがめ賛美したのです。これらの出来事すべてを喜ぶように、その夜、星々が満天に輝いていたことでしょう。最初のクリスマスは、虚飾を排した神の真実のクリスマスでした。

救い主誕生を信じて馬小屋を訪れた羊飼いは、どのような人々だったのでしょか。羊飼いは、乳と羊毛の供給源である羊を守り育てる大切な仕事でしたが、低く見做された職業の人でした。群れを導いて野に水辺にと移動する定住できない生活で、おまけに夜も寝ずの番、それは狼や羊泥棒に対して体を張って羊を守る厳しい仕事でした。そのため羊飼いは警戒心、猜疑心が強く、気性は荒く、また羊の臭いが染みついている、町や村の人々から疎まれてもいました。当時、怠ける子どもに対して、「羊飼いにしかなれない」と言って叱ったと言われます。大切な働きをしながら報われず、世の中で低くみられる羊飼でした。しかし神様が救い主誕生を告知されたのは、宗教家でも貴族、王でもなく、貧しい羊飼이었다とルカは告げます。ここに、奢る者を打ち散らし身分の低い者を引き上げる神が示されます。ご利益の神でも、願掛けの神でもありません。義を実現する神です。それはマリアの賛歌(ルカによる福音書2章47節以下)にも歌われています。外観や噂で人を判断しない正義の神、その神の恵みが示されるのがクリスマスです。

権力や富と全く無縁の存在に救い主を認め、この出来事に感動し、新しい生き方を発見した喜びに包まれた羊飼いは、この新しい信仰の恵みのうちに、真実の神を賛美しつつ帰路についたのでした。真に素晴らしい最初のクリスマスの光景でした。

〈プロフィール〉

鈴木重正 1948年生まれ 岐阜県揖斐郡在住 大阪市出身 関西学院大学神学部卒 牧会歴：日本キリスト教団武庫之荘教会(尼崎市) 高槻教会(高槻市) 主恩教会(神戸市) スイスプロテスタント教会ウスター教会(チューリッヒ州ウスター市) 名古屋中央教会(名古屋市) 佐賀教会(佐賀市) 東中野教会(東京都中野区)